

シラバス目次

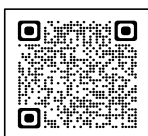
科目区分		授業科目名	ページ
専門 科目	実践的教育能力 育成科目	大学体育論	1
		大学体育授業演習Ⅰ	3
		大学体育授業演習Ⅱ	5
		大学体育授業演習Ⅲ	7
		体育スポーツ実践的指導演習	9
	実践的研究能力 育成科目	体育スポーツ実践的研究方法論	11
		体育スポーツ実践的研究演習Ⅰ	13
		体育スポーツ実践的研究演習Ⅱ	16
		体育スポーツ実践的研究演習Ⅲ	18
		大学体育研究演習	21
		大学スポーツマネジメント演習Ⅰ	23
		大学スポーツマネジメント演習Ⅱ	25
	博士論文研究能力 育成科目	博士論文課題演習Ⅰ	29
		博士論文課題演習Ⅱ	31
	専門 基礎 科目	高度指導者教養 育成科目	国際インターンシップ
コーチングの哲学と倫理			33
最先端スポーツ科学理論			35

シラバスの詳細は、大学の公式ホームページよりご確認ください。

■リンク

<https://www.nifs-k.ac.jp/faculties/graduate-school/joint-doctral-program/>

■QRコード



授業科目名	大学体育論
科目番号	OBVA001
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 集中
担当教員	木内 敦詞, 松尾 博一, 川戸湧也
授業概要	体育以外を専攻する大学生対象に開講される、教養(共通)科目としての体育授業を、一般に「大学体育」と呼ぶ。体育を専攻する大学院生が修了後に大学で職を得る場合、その多くがこの大学体育を主に担当することになる。体育以外を専攻する大学生への体育授業や運動部活動のあり方を考えることは、将来の大学体育教員をめざす大学院生へ向けたキャリア教育ともいえる。本講では、今日の大学教養体育教員に求められる職務の理解を深めるとともに、大学体育や大学スポーツの教育・指導の質保証に繋がる知見を体系的に学ぶ。
備考	02JD001と同一。 4/19,5/10,5/24,6/7 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義及び演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「マネジメント能力」「実践的教育能力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	(1) 大学体育の歴史やこれまでの変遷過程の概略を説明できる。 (2) 自身の勤務する/したい大学の教育理念を理解し、説明できる。 (3) 大学の体育授業や運動部活動の指導に関する自己の教育理念を言語化できる。 (4) 自己の教育理念に基づいて、当該大学の教育理念に通じる体育授業や運動部活動の指導を設計できる。
授業計画	体育以外を専攻する大学生対象に開講される、教養(共通)科目としての体育授業を、一般に「大学体育」と呼ぶ。体育を専攻する大学院生が修了後に大学で職を得る場合、その多くがこの大学体育を主に担当することになる。体育以外を専攻する大学生への体育授業や運動部活動のあり方を考えることは、将来の大学体育教員をめざす大学院生へ向けたキャリア教育ともいえる。本講では、今日の大学教養体育教員に求められる職務の理解を深めるとともに、大学体育や大学スポーツの教育・指導の質保証に繋がる知見を体系的に学ぶ。 (1) 大学体育の授業設計 担当:川戸 湧也 (2) 大学体育の授業改善 担当:川戸 湧也 (3) 大学他教養体育教員のキャリア形成 担当:川戸 湧也 (4) 大学スポーツの価値 担当:松尾 博一 (5) 米国の大学スポーツ 担当:松尾 博一 (6) 日本の大学スポーツ 担当:松尾 博一 (7) ティーチング・ポートフォリオ・チャートの作成 担当:木内 敦詞 (8) 自己の教育理念の整理 担当:木内 敦詞 (9) ティーチング・ポートフォリオ・チャートの見直し 担当:木内 敦詞 (10) Scholarship of Teaching and Learning (SoTL) への展開 担当:木内 敦詞
履修条件	本専攻の起点となる必修科目
成績評価方法	プレゼンテーション内容と質疑応答50%、レポート50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(50%)と演習(50%)を併用する。 授業終了時に毎回宿題を課すので、期日までにレポート提出のこと。 下欄に挙げる文献のうち、興味のあるものいくつかを読むことが望ましい。

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	本時は1単位なので授業時間と合わせて45時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	1. 橋本公雄ほか,『自己成長をはかる大学体育』、花書院、2021 2. 栗田佳代子,『リフレクションを可視化するティーチング・ポートフォリオ・チャート作成講座』,医学書院,2021 3. 中島英博,シリーズ大学の教授法1『授業設計』,玉川大学出版部,2016
オフィスアワー等(連絡先含む)	重複を避けるため、事前に連絡を取ることが望ましい。 木内 敦詞 kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp 松尾 博一 matsuo.hirokazu.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	全国大学体育連合によるFD研修会や研究フォーラムへ参加するなど、大学体育教員(あるいはそれをめざす者)としての継続的な研鑽を望む。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	大学体育, 教養教育, シラバス, 3つのポリシー, FD, 大学スポーツ, スポーツ・ライフ・バランス, キャリア発達, SoTL

授業科目名	大学体育授業演習I
科目番号	OBVA002
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年 随時
担当教員	木内 敦詞, 長谷川 悦示
授業概要	2025年度は対面授業を筑波大で6/21土12:15-16:30に実施．教師行動分析の手法を学んだ後，自身の授業や指導場面の録画録音をもとに，自己分析する．
備考	スポーツコードを用いて教師行動の改善に役立てる。筑波大学開講02JD002と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「マネジメント能力」「実践的教育能力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	体育授業を観察評価するための分析的な知識・技能・態度を総合的に獲得する。 (1) 体育教師の備えるべき知識構造を説明することができる。 (2) 反省的实践家としての体育教師に必要な自己内省を、複眼的な視点から行うことができる。 (3) 組織観察法による教師行動分析を行うとともに、その結果に基づく改善策を工夫することができる。
授業計画	主に体育科教育学で確立されてきた体育授業の観察評価方法を体系的に学ぶ。自身の体育授業や部活動等の指導場面を観察評価するための分析的な知識・技能・態度を総合的に獲得することを到達目標とし、主観的な評価方法と組織的な評価方法を網羅的に体験する。 (1) 診断的・総括的評価法の理解 (2) 診断的・総括的評価法による観察と評価 (3) 形成的評価法の理解 (4) 形成的評価法による観察と評価 (5) 観察者の授業観察評価法の理解 (6) 観察者の授業観察評価法による観察と評価 (7) 授業場面の観察記録の理解 (8) 授業場面の観察記録による観察と評価 (9) 授業の勢いの理解 (10) 授業の勢いに関する観察と評価 (11) 授業の雰囲気理解 (12) 授業の雰囲気に関する観察と評価 (13) 教師の相互作用行動の理解 (14) 教師の相互作用行動に関する観察と評価 (15) 教師のフィードバック行動の理解 (16) 教師のフィードバック行動に関する観察と評価 (17) ゲームの観察記録基礎の理解 (18) ゲームの観察記録基礎に関する観察と評価 (19) ゲームの観察記録応用の理解 (20) ゲームの観察記録応用に関する観察と評価
履修条件	大学体育授業演習IIおよびIIIを履修する前に、当科目を履修することが望ましい。
成績評価方法	自立的な省察力の獲得の程度を、授業場面、省察記録、面談等から40%、レポートから60%

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業後毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること 下欄に挙げる文献を読むことが望ましい。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	1. 高橋健夫, 『体育授業を観察評価する』、明和出版、2003
オフィスアワー等(連絡先含む)	重複を避けるため、事前に連絡を取ることが望ましい。 木内 敦詞 kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp 長谷川 悦示 hasegawa.etsushi.fu at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	全国大学体育連合によるFD研修会や研究フォーラムへ参加するなど、大学体育教員としての継続的な研鑽を望む。 大学体育授業演習IIおよびIIIを履修する前に、当科目を履修することが望ましい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	授業設計, 教師行動, 省察, 模擬授業, 授業参観

授業科目名	大学体育授業演習Ⅱ
科目番号	OBVA003
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	通年 随時
担当教員	木内 敦詞, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 金谷 麻理子, 奈良 隆章, 松尾 博一, 永田 真一
授業概要	大学2年次生対象の大学教養体育授業を演習の場とする。授業の目標 内容 評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。
備考	02JD003と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「マネジメント能力」「実践的教育能力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	授業の目標 内容 評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができる。 (1) 授業の目標 内容 評価を関連づけることができる。 (2) 自己の教育理念 方針 方法を整理し、関連づけることができる。 (3) ティーチング・ポートフォリオをまとめることができる。
授業計画	大学2年次生対象の大学教養体育授業を演習の場とする。授業の目標 内容 評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自立的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。 (1) 授業設計の理解 (2) ティーチング・ポートフォリオの理解 (3) 「基本情報」の作成 (4) 「作成の目的」の作成 (5) 「教育の責任(教育活動)」の作成 (6) 「改善・努力」の作成 (7) 「成果・評価」の作成 (8) 自己紹介とチャートの共有 (9) 「方法」の作成 (10) 「方針」の作成 (11) 「理念」の作成 (12) 「理念に関する個人エピソード」の作成 (13) 「理念」「方針・方法」の対応づけ (14) 対応づけの共有と対話 (15) 共有の気づきに基づく修正 (16) 「エビデンス」の作成 (17) 「エビデンス」の共有 (18) 「目標」の作成 (19) 「作成の感想」の作成 (20) 「目標」「感想」の共有
履修条件	大学体育授業演習Ⅰを履修していることが望ましい。
成績評価方法	自立的な省察力の獲得の程度を、授業場面、省察記録、面談等から40%, レポートから60%
学修時間の割り当て及び授業外における学修	授業後毎回宿題を課すので、次回に小レポートとして提出すること 下欄に挙げる文献を読むことが望ましい。

方法	大学体育授業演習Ⅰを履修していることが望ましい。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	1. 大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会編、『ティーチング・ポートフォリオ・スターブック』NTS, 2011 2. 皆本晃弥著、『ティーチング・ポートフォリオ導入・活用ガイド』近代科学社、2012
オフィスアワー等（連絡先含む）	重複を避けるため、事前に連絡を取ることが望ましい。 木内 敦詞 kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp 鍋倉 賢治 月曜日15:00-16:00 nabekura.yoshihar.fm at u.tsukuba.ac.jp http://training.arrow.jp/nabekura/index.php?FrontPage 坂本 昭裕 特に定めませんが、事前に連絡してから訪問してください。 sakamoto.akihiro.ff at u.tsukuba.ac.jp 金谷 麻理子 kanaya.mariko.fp at u.tsukuba.ac.jp 奈良 隆章 木曜日10時30分から11時30分 体育科学系B棟 303 6336 nara.takaaki.gp at u.tsukuba.ac.jp 松尾 博一 matsuo.hirokazu.ga at u.tsukuba.ac.jp 永田 真一 メールにてアポイントメントをとってください GSI410 nagata.shinichi.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	全国大学体育連合によるFD研修会や研究フォーラムへ参加するなど、大学体育教員（あるいはそれをめざす者）としての継続的な研鑽を望む。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	ティーチング・ポートフォリオ, 教育理念 方針 方法, 授業目的 方法・内容 評価

授業科目名	大学体育授業演習Ⅲ
科目番号	OBVA004
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	通年 随時
担当教員	木内 敦詞, 本間 三和子, 高木 英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 金谷 麻理子, 奈良 隆章, 松尾 博一, 永田 真一
授業概要	曜日時限の固定された定時開講ではない、季節性の集中授業として開講される大学教養体育授業を演習の場とする。非日常的な活動を通じた経験から学ぶ力を学生と共に育むべく、安全で効率的で魅力的な集中授業を運営できる能力を身につける。
備考	02JD004と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンストとの関係	「マネジメント能力」「実践的教育能力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	(1) リフレクションの概念とそれを支える理論的枠組みに関する知識を獲得する。 (2) 定時開講授業と集中授業の魅力と難しさについて、自らの体験をもとに整理し説明することができる。 (3) 今後の集中授業改善に活かす自分なりの指針をレポートすることができる。
授業計画	曜日時限の固定された定時開講ではない、季節性の集中授業として開講される大学教養体育授業を演習の場とする。非日常的な活動を通じた経験から学ぶ力を学生と共に育むべく、安全で効果的で魅力的な集中授業を運営できる能力を身につける。 (1) 授業設計の理解 (2) リフレクションの概念 (3) 頭でっかちにならないリフレクション (4) 主観的で経験的なリフレクション (5) 自己と強みをみるリフレクション (6) コルトハーヘンの理論 (7) ALACTモデルとは (8) ALACTモデルを活用したリフレクション (9) 8つの問いを活用したリフレクション (10) アクションリサーチ型リフレクション (11) 集中授業初日1限（以降、各集中授業ごとの活動） (12) 集中授業初日2限 (13) 集中授業初日3限 (14) 集中授業初日4限 (15) 集中授業初日5限 (16) 集中授業2日目1限 (17) 集中授業2日目2限 (18) 集中授業2日目3限 (19) 集中授業2日目4限 (20) 集中授業2日目5限
履修条件	大学体育授業演習Ⅰを履修していることが望ましい。
成績評価方法	自立的な省察力の獲得の程度を、授業場面、省察記録、面談等から40%、レポートから60%
学修時間の割り当て及び授業外における学修	下欄に挙げる文献を読むことが望ましい。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。

方法	
教材・参考文献・配付資料等	1. 学び続ける教育者のための協会(REFLECT)編, 『リフレクション入門』学文社, 2019
オフィスアワー等(連絡先含む)	木内 敦詞 kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp 本間 三和子 homma.miwako.fe at u.tsukuba.ac.jp 高木 英樹 takagi.hideki.ga at u.tsukuba.ac.jp http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/~takagi/ 鍋倉 賢治 月曜日15:00-16:00 nabekura.yoshihar.fm at u.tsukuba.ac.jp http://training.arrow.jp/nabekura/index.php?FrontPage 坂本 昭裕 特に定めませんが、事前に連絡してから訪問してください。 sakamoto.akihiro.ff at u.tsukuba.ac.jp 金谷 麻理子 kanaya.mariko.fp at u.tsukuba.ac.jp 奈良 隆章 木曜日10時30分から11時30分 体育科学系B棟 303 6336 nara.takaaki.gp at u.tsukuba.ac.jp 松尾 博一 matsuo.hirokazu.ga at u.tsukuba.ac.jp 永田 真一 メールにてアポイントメントをとってください GSI410 nagata.shinichi.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	全国大学体育連合によるFD研修会や研究フォーラムへ参加するなど、大学体育教員(あるいはそれをめざす者)としての継続的な研鑽を望む。 大学体育授業演習Ⅰを履修していることが望ましい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	集中授業, 授業運営, 体験学習, リフレクション

授業科目名	体育スポーツ実践的指導演習
科目番号	0BVA005
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春ABC 金2
担当教員	高橋 仁大, 金高 宏文, 前田 明, 竹中 健太郎, 梶 ちか子, 藤井 雅文
授業概要	大学体育スポーツを先導する実技教育能力を身につけるために大学体育スポーツの指導者としての専門的知識・態度について概説し、大学体育スポーツ指導の計画と実践を通して実技教育能力を養成する。
備考	02JD005と同一。 遠隔授業 鹿屋体育大学
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「マネジメント能力」「実践的教育能力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	大学体育スポーツの指導者として身につけるべき専門的知識・態度について理解し、大学体育スポーツ指導の計画と実践を通して大学体育スポーツにおける実技教育能力を獲得する。
授業計画	<p>(1) 大学体育スポーツ指導における理論知と実践知【高橋】</p> <p>(2) 大学体育スポーツ指導者のリテラシーとコンピテンス【高橋】</p> <p>(3) 大学体育スポーツ指導におけるコーチング1 技術の診断と処方【金高】</p> <p>(4) 大学体育スポーツ指導におけるコーチング2 コーチングの実際【金高】</p> <p>(5) 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目1【竹中】</p> <p>(6) 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目2【竹中】</p> <p>(7) 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目3【梶】</p> <p>(8) 大学体育スポーツ指導の実際 個人種目4【梶】</p> <p>(9) 大学体育スポーツ指導の実際 チーム種目1【藤井】</p> <p>(10) 大学体育スポーツ指導の実際 チーム種目1【藤井】</p> <p>(11) 大学体育スポーツ指導の計画と実践1 指導実践1【高橋・梶・藤井】</p> <p>(12) 大学体育スポーツ指導の計画と実践2 指導実践1の振り返りと指導実践2【高橋・梶・藤井】</p> <p>(13) 大学体育スポーツ指導の計画と実践3 指導実践2の振り返りと指導実践3【高橋・梶・藤井】</p> <p>(14) 大学体育スポーツ指導の計画と実践4 指導実践3の振り返りと指導実践4【高橋・梶・藤井】</p>

授業計画	(15) 実践的体育スポーツ指導者を旨して【高橋・梶・藤井】
履修条件	
成績評価方法	各回の授業レポート(50%),指導実践の内容と発表(50%)から総合的に評価する. 各回の授業レポートおよび指導実践の内容と発表については,必要に応じて次回以降の授業内で講評を行う.
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業後に課題を課すので,次回に小レポートとして提出及び発表準備をしておくこと. 指定した教材を事前に読んでおくこと. 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	随時資料を配付する 1. 勝田隆,『知的コーチングのすすめ』、大修館書店、2002 2. 山本正嘉,『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』市村書店、2021 3. 日本スポーツ協会編,『Reference Book』日本スポーツ協会編,2020
オフィスアワー等(連絡先含む)	随時だが,事前にアポイントを取ることが望ましい. 高橋(SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 金高(大学院棟3階4教員室) 前田(研究棟4階405教員研究室) 竹中(研究棟5階507教員研究室) 梶(研究棟7階703教員研究室) 藤井(研究等8階804教員研究室)
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し,適切に活用してください.生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため,得られた情報は批判的に評価し,責任をもって内容を精査してください.
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	大学体育, 大学スポーツ, 実技教育能力, コーチング, リテラシー, コンピテンシー, 指導計画, 指導実践

授業科目名	体育スポーツ実践的研究方法論
科目番号	OBVA102
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 集中
担当教員	高橋 仁大, 金高 宏文, 前田 明, 竹中 健太郎, 梶 ちか子, 藤井 雅文
授業概要	スポーツの実践現場へ貢献するための実践的研究の方法論について概説する。特に大学体育および大学スポーツを対象に、その実践の現場で起こる様々な事象について、直接的に寄与する知見(実践の知)を得るための研究方法論について学ぶ。
備考	02JD101と同一。 4/19, 5/10, 5/24, 6/7 遠隔授業 オンライン(同時双方向型) 鹿屋体育大学
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の創成力」「実践的教育能力」「倫理観」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	大学体育および大学スポーツを対象に、その実践の現場で起こる様々な事象について、直接的に寄与する知見(実践の知)を得るための研究方法論について理解し、実践的研究を推進することができる。
授業計画	(1) 実践的研究の意義【高橋】 (2) 大学体育・スポーツにおける実践を意識した研究のあり方【梶】 (3) 体育・スポーツ実践における経験知(実践知)を記述・分析する方法論【金高】 (4) 実践知を客観的に記述・検証する方法論1 ゲーム・戦術を記述・検証する【金高】 (5) 実践知を客観的に記述・検証する方法論2 動きを記述・検証する【藤井】 (6) 実践知を客観的に記述・検証する方法論3 コーチングおよびチームマネジメントを記述・検証する【藤井】 (7) 実践知を客観的に記述・検証する方法論4 コンディショニングを記述・検証する【竹中】 (8) 実践的研究を進めるための研究計画と研究倫理【竹中】
履修条件	
成績評価方法	各回の授業レポート(50%)および授業の参加度と発表(50%)から総合的に評価する。 各回の授業レポートについては、必要に応じて次回以降の授業内で講評を行う。 最終レポートについては、LMSを通じて講評を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業後に課題を課すので、次回に小レポートとして提出及び発表準備をしておくこと。 指定した教材を事前に読んでおくこと。 本時は1単位なので授業時間と合わせて45時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付	1. <教科書> 福永・山本編著, 『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文

資料等	<p>の書き方』市村出版(2018)</p> <p>2. <参考書>山本正嘉,『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』、市村書店(2021)</p> <p>3. <参考書>Tim McGarry, Peter O' Donoghue,『Routledge Handbook of Sports Performance Analysis』, Jaime Sampaio Routledge 2015</p> <p>随時資料を配布する</p>
オフィスアワー等(連絡先含む)	<p>随時だが,事前にアポイントを取ることが望ましい</p> <p>高橋(SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室)</p> <p>金高(大学院棟3階 4教員研究室)</p> <p>前田(研究棟4階405教員研究室)</p> <p>竹中(研究棟5階507教員研究室)</p> <p>楯(研究棟7階703教員研究室)</p> <p>藤井(研究等8階804教員研究室)</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し,適切に活用してください.生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため,得られた情報は批判的に評価し,責任をもって内容を精査してください.</p>
他の授業科目との関連	<p>OBVA103 体育スポーツ実践的研究演習I</p> <p>OBVA104 体育スポーツ実践的研究演習II</p> <p>OBVA105 体育スポーツ実践的研究演習III</p>
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	<p>実践的研究, 実践知, 研究計画, 研究倫理</p>

授業科目名	体育スポーツ実践的研究演習I
科目番号	OBVA103
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋ABC 木1
担当教員	高橋 仁大, 金高 宏文, 前田 明, 竹中 健太郎, 梶 ちか子, 藤井 雅文
授業概要	体育およびスポーツにおける実践的な研究とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を講読し、それを題材として実践的研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深めるとともに、自身のデータや事例をもとに実践的研究の論文としてまとめる作業を行う。
備考	02JD102と同一。 遠隔授業 オンライン(同時双方向型) 鹿屋体育大学
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の創成力」「実践的研究能力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	体育およびスポーツにおける実践的な研究能力とは何かについて、過去の研究者が発表した論文を講読することにより理解し、自らが携わるフィールドでのデータや事例を元に、実践的な研究論文としてどうまとめるかを考えることにより、その研究能力を身につけることを目指す。具体的な実践的な研究論文や発表の要約ができることと、自らが考え取り組む実践的研究論文について発表・質疑応答ができること。
授業計画	(1) 演習の趣旨説明:実践的研究とは何か 【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (2) 実践的研究における研究方法を探る 【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (3) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:陸上競技) 【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (4) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:水泳競技) 【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (5) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:体操競技) 【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (6) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:球技スポーツ・ゴール型) 【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (7) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:球技スポーツ・ネット型) 【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (8) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:球技スポーツ・ベースボール型)

授業計画	<p>【金高，高橋，前田，竹中，梶，藤井】</p> <p>(9) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:自転車競技)</p> <p>【金高，高橋，前田，竹中，梶，藤井】</p> <p>(10) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:水上スポーツ)</p> <p>【金高，高橋，前田，竹中，梶，藤井】</p> <p>(11) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:学校体育等)</p> <p>【金高，高橋，前田，竹中，梶，藤井】</p> <p>(12) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:武道)</p> <p>【金高，高橋，前田，竹中，梶，藤井】</p> <p>(13) 実践研究の発表(1)1</p> <p>【金高，高橋，前田，竹中，梶，藤井】</p> <p>(14) 実践研究の発表(1)2</p> <p>【金高，高橋，前田，竹中，梶，藤井】</p> <p>(15) 実践的研究の展望と課題</p> <p>【金高，高橋，前田，竹中，梶，藤井】</p>
履修条件	大学体育スポーツにおける実践的研究能力を醸成する科目
成績評価方法	<p>積極的な討議への参加度(30%)や適切な要約度(20%)から評価する。「スポーツパフォーマンス・カンファレンス(SPERC)」での発表(40%)や『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする実践的な研究論文を掲載する雑誌への執筆・投稿も積極的に行い、成果があればそれも評価に加える(10%)。</p> <p>積極的な討議への参加，適切な要約，SPERCでの発表等については，必要に応じて各授業回で講評を行う，</p> <p>論文投稿については履修者からの申し出を踏まえてLMSを通じて講評を行う．</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>指定した教科書の体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方を事前に読んでおくこと。実践研究の発表の準備をすること。</p> <p>本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。</p>
教材・参考文献・配付資料等	<p>資料がある場合はwebclassに掲載及び受講生へメール送信。</p> <p>1. 福永・山本編著，『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』市村出版(2018)</p> <p>2. 山本正嘉，『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』、市村書店(2021)</p> <p>『スポーツパフォーマンス研究』(http://www.sports-performance.jp/)にこれまでに掲載された研究論文およびEditorial</p>
オフィスアワー等(連絡先含む)	<p>随時だが、事前にアポイントをとることが望ましい。</p> <p>金高(大学院棟3階4教員室)</p> <p>高橋(SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室)</p> <p>前田(研究棟4階405教員研究室)</p> <p>竹中(研究棟5階507教員研究室)</p> <p>梶(研究棟7階703教員研究室)</p> <p>藤井(研究棟8階804教員研究室)</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>スポーツパフォーマンス研究などの実践研究のジャーナルへの投稿を望む。</p> <p>「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し，適切に活用してください．生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため，得られた情報は批判的に評価し，責任をもって内容を精査してください．</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	理論知, 実践知, 科学知, 身体知, 個別性, 普遍性, 事例研究, 実証研究, 問題・課題, トライアングレーション, 反証性, 事実, 解釈, 有用性, 共感性, 説明(論理)性, 仮説, ストーリー, リミテーション

授業科目名	体育スポーツ実践的研究演習II
科目番号	OBVA104
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	春ABC 木1
担当教員	高橋 仁大, 金高 宏文, 前田 明, 竹中 健太郎, 梶 ちか子, 藤井 雅文
授業概要	体育およびスポーツにおける実践的な研究能力を身につけるために、受講者が関わっている体育やスポーツの現場において、自らがデータや事例を収集し、それを実践研究の論文としてまとめ、『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする、実践的な研究論文を掲載する雑誌に投稿・掲載するまでの作業を行う。
備考	02JD103と同一。 遠隔授業 鹿屋体育大学
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の創成力」「実践的研究能力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	自らが携わる体育・スポーツ現場において、データを収集し、それを元に実践的な研究論文を執筆・投稿し、査読者とのやりとりを経て掲載にまで持って行くことで、自立した研究者となれるような能力を身につける。具体的な実践的な研究論文や発表の要約ができることと、自らが考え取り組む実践的研究論文について発表・質疑応答ができること。さらに、実践的研究論文を執筆や投稿できること。
授業計画	(1) 演習の趣旨説明:実践的研究とは何か【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (2) 実践的研究における研究方法を探る【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (3) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:陸上競技)【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (4) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:水泳競技)【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (5) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:体操競技)【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (6) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:球技スポーツ・ゴール型)【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (7) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:球技スポーツ・ネット型)【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (8) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:球技スポーツ・ベースボール型)【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (9) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:自転車競技)【金高, 高橋, 前田, 竹中, 梶, 藤井】 (10) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:水上スポーツ)【金高, 高橋, 前田, 竹

授業計画	<p>中，栞，藤井】</p> <p>(11) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:学校体育等)【金高，高橋，前田，竹中，栞，藤井】</p> <p>(12) 研究発表の視聴や論文の講読と討議(例:武道)【金高，高橋，前田，竹中，栞，藤井】</p> <p>(13) 実践研究の発表(1) 【金高，高橋，前田，竹中，栞，藤井】</p> <p>(14) 実践研究の発表(1) 【金高，高橋，前田，竹中，栞，藤井】</p> <p>(15) 実践的研究の展望と課題【金高，高橋，前田，竹中，栞，藤井】</p>
履修条件	大学体育スポーツにおける実践的研究能力を醸成する科目
成績評価方法	<p>積極的な討議への参加度(30%)や適切な要約度(20%)から評価する。「スポーツパフォーマンス・カンファレンス(SPERC)」での発表(30%)および『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする実践的な研究論文を掲載する雑誌への執筆・投稿(20%)から判断する。</p> <p>積極的な討議への参加，適切な要約，SPERCでの発表等については，必要に応じて各授業回で講評を行う，</p> <p>論文投稿については履修者からの申し出を踏まえてLMSを通じて講評を行う。</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>指定した教科書の体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方を事前に読んでおくこと。実践研究の発表の準備をすること。</p> <p>本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。</p>
教材・参考文献・配付資料等	<p>1. 福永・山本編著，『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』市村出版(2018)</p> <p>2. 山本正嘉，『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』、市村書店(2021)</p> <p>『スポーツパフォーマンス研究』(http://www.sports-performance.jp/)にこれまでに掲載された研究論文およびEditorial</p>
オフィスアワー等(連絡先含む)	<p>随時だが、事前にアポイントをとることが望ましい。</p> <p>金高(大学院棟3階4教員室)</p> <p>高橋(SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室)</p> <p>前田(研究棟4階405教員研究室)</p> <p>竹中(研究棟5階507教員研究室)</p> <p>栞(研究棟7階703教員研究室)</p> <p>藤井(研究等8階804教員研究室)</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>スポーツパフォーマンス研究などの実践研究のジャーナルへの投稿を望む。</p> <p>「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し，適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため，得られた情報は批判的に評価し，責任をもって内容を精査してください。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	<p>理論知，実践知，科学知，身体知，個別性，普遍性，事例研究，実証研究，問題・課題，トライアングレーション，反証性，事実，解釈，有用性，共感性，説明(論理)性，仮説，ストーリー，リミテーション</p>

授業科目名	体育スポーツ実践的研究演習III
科目番号	OBVA105
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	通年 随時
担当教員	高橋 仁大, 金高 宏文, 前田 明, 竹中 健太郎, 梶 ちか子, 藤井 雅文
授業概要	光学式モーションキャプチャー、フォースプレートやハイスピードカメラ、オブジェクトトラッキングシステム、球質診断装置等の先進的な研究機器をスポーツパフォーマンス研究センター等に設置して、体育・スポーツの実践的研究能力を向上させるための演習を行う。必要に応じてその種目の競技場や体育館に設置しデータを取得する。その後、得られたデータの分析法、フィードバック法を検討し、状況に合わせたデータ処理、データ提供をどのようにすべきか議論する。さらに上記の客観的データに加えて、アスリートおよびその他の実験協力者の内省報告を重視し、主観的データも併せた研究を行う。
備考	02JD104と同一。 遠隔授業 オンライン(同時双方向型) 鹿屋体育大学
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の創成力」「実践的研究能力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	学位論文のための研究にもいかせるように、指導教員および副指導教員の意見を踏まえて体育・スポーツ実践現場をシミュレートしたテーマについて討論したのちに、測定・実験を行い、成果を取りまとめて投稿論文に仕上げていく。
授業計画	(1) 実践的研究テーマ、測定法の検討;1 -集中授業第1週目(2日間)- 研究テーマを複数検討し提出 【高橋, 前田, 金高, 竹中, 梶, 藤井】 (2) 実践的研究テーマ、測定法の検討;2 -集中授業第1週目(2日間)- 測定方法のアイデアを複数検討し提出 【高橋, 前田, 金高, 竹中, 梶, 藤井】 (3) 測定機器について1 -集中授業第1週目(2日間)- 研究計画の測定機器の理解 【高橋, 前田, 金高, 竹中, 梶, 藤井】 (4) 測定機器について2 -集中授業第1週目(2日間)-

<p>授業計画</p>	<p>研究計画の測定機器の理解 先行研究の概観 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (5) 実践的研究テーマにそった測定1 -集中授業第1週目(2日間)- 予備実験の準備 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (6) 実践的研究テーマにそった測定2 -集中授業第1週目(2日間)- 測定の実施 留意点の確認 倫理的配慮 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (7) 測定データの検討1 -集中授業第1週目(2日間)- データ処理の確認 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (8) 実践的研究テーマ、測定法の検討;3 -集中授業第2週目(2日間)- 1回目のデータをもとにしたテーマ、測定法の再考 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (9) 実践的研究テーマ、測定法の検討;4 -集中授業第2週目(2日間)- 先行研究を含めて、研究テーマ、測定法の再考 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (10) 測定機器について3 -集中授業第2週目(2日間)- 追加する測定機器の確認、測定精度の確認 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (11) 実践的研究テーマにそった測定3 -集中授業第2週目(2日間)- 2回目の測定を実施 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (12) 実践的研究テーマにそった測定4 -集中授業第2週目(2日間)- 3回目の測定の実施 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (13) 測定データの検討2 -集中授業第2週目(2日間)- この測定法で問題ないか再度確認 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (14) 投稿論文のためのプレゼンテーション1 -集中授業第3週目(1日間)- 投稿論文の内容の概要を発表 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】 (15) 投稿論文のためのプレゼンテーション2 -集中授業第3週目(1日間)- 再度精査した投稿論文の内容を発表 【高橋，前田，金高，竹中，梶，藤井】</p>
-------------	---

履修条件	大学体育スポーツにおける実践的研究能力を醸成する科目
成績評価方法	投稿論文の作成・プレゼンテーションを評価する。 プレゼン・質疑 30%、要約 30%、授業参画 30%、論文投稿 10% 投稿論文の作成およびプレゼンテーションについては、必要に応じて各授業回で講評を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	指定した教材を事前に読んでおくこと。 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	1. <教科書> 福永・山本編著、『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』市村出版(2018) 2. <参考書> 山本正嘉、『アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学』、市村書店(2021) 随時必要な原著論文や専門領域に関する書籍や資料などを用いる。
オフィスアワー等(連絡先含む)	随時だが、事前にアポイントをとることが望ましい 高橋 (SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室) 金高 (大学院棟3階 4教員研究室) 前田 (研究棟4階405教員研究室) 竹中 (研究棟5階507教員研究室) 柘 (研究棟7階703教員研究室) 藤井 (研究等 8 階804教員研究室)
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	実践的研究, 研究計画立案, 測定技術, データ処理, プレゼンテーション

授業科目名	大学体育研究演習
科目番号	OBVA101
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB秋AB 金1
担当教員	木内 敦詞, 金谷 麻理子, 奈良 隆章, 永田 真一
授業概要	研究方法・論文執筆方法をテキスト『(春学期)研究の育て方:ゴールとプロセスの「見える化」』、『(秋学期)基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆』に沿って体系的に学ぶ。研究のテーマをどう設定し,計画をどう設計し,論文をどう執筆するかについて,そのゴールとプロセスを概観することで,学術研究の作法を体系的に学ぶ。その中で大学体育教員としての職業観の深化を狙う。
備考	GS1306 02JD105と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の創成力」「実践的教育能力」「倫理観」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	(1) 研究のゴールとプロセスを説明することができる。 (2) よい研究の条件を説明することができる。 (3) 研究倫理に関する近年の動向を説明することができる。 (4) 論文の各構成要素で述べるべき事項を説明することができる。
授業計画	研究方法・論文執筆方法をテキスト『(春学期)研究の育て方:ゴールとプロセスの「見える化」』、『(秋学期)基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆』に沿って体系的に学ぶ。研究のテーマをどう設定し,計画をどう設計し,論文をどう執筆するかについて,そのゴールとプロセスを概観することで,学術研究の作法を体系的に学ぶ。その中で,大学体育教員としての職業観の深化を狙う。 (1) <春学期>本専攻の目指す人材像 担当:木内 敦詞 (2) <春学期>同期生の研究テーマの相互理解 担当:木内 敦詞 (3) <春学期>すぐれた研究とは 担当:木内 敦詞 (4) <春学期>研究設計 担当:木内 敦詞 (5) <春学期>研究倫理 担当:木内 敦詞 (6) <春学期>スコーピングレビュー 担当:木内 敦詞 (7) <春学期>大学体育授業関連の研究紹介 担当:奈良 隆章 (8) <春学期>データの収集と分析 担当:奈良 隆章 (9) <春学期>論文執筆および研究発表 担当:奈良 隆章 (10) <春学期>研究環境の構築 担当:奈良 隆章 (11) <秋学期>学位取得までの道のり 担当:金谷 麻理子 (12) <秋学期>発表や執筆を始める前に 担当:金谷 麻理子 (13) <秋学期>学会発表 担当:金谷 麻理子 (14) <秋学期>論文執筆と投稿 担当:金谷 麻理子 (15) <秋学期>研究成果を公表することの重要性 担当:金谷 麻理子 (16) <秋学期> 投稿する英文誌の特定(英語で授業実施) 担当:永田 真一 (17) <秋学期>英語科学論文の暗黙のルール(英語で授業実施) 担当:永田 真一 (18) <秋学期>英語科学論文の書き方(英語で授業実施) 担当:永田 真一 (19) <秋学期>英文誌における査読者とのやりとり(英語で授業実施) 担当:永田 真一 (20) <秋学期>研究者としてのプレゼンスについて(英語で授業実施) 担当:永田 真一

履修条件	1年次に履修することが望ましい。
成績評価方法	プレゼンテーション内容と質疑応答50%、レポート50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	下に示す文献を1年間の中で通読すること。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	1. 近藤克典, 『研究の育て方:ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院, 2018 2. 中村好一, 『基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆』医学書院, 2013 3. 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編, 『科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得』丸善出版, 2015
オフィスアワー等(連絡先含む)	重複を避けるため、事前に連絡を取ることが望ましい。 木内 敦詞 kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp 金谷 麻理子 kanaya.mariko.fp at u.tsukuba.ac.jp 奈良 隆章 木曜日10時30分から11時30分 体育科学系B棟 303 6336 nara.takaaki.gp at u.tsukuba.ac.jp 永田 真一 メールにてアポイントメントをとってください GSI410 nagata.shinichi.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」2014年改訂(2017年一部改正)(文部科学省,厚生労働省),「筑波大学体育系研究倫理委員会研究倫理審査申請の手引き」を必ず読むこと。博士論文課題演習Ⅰと並行して受講することが望ましい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	研究構想・デザイン・計画, 研究倫理, 個人情報保護法, やり抜く力, ライフワーク

授業科目名	大学スポーツマネジメント演習I
科目番号	OBVA106
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	秋AB 金5,6
担当教員	高木 英樹, 松尾 博一
授業概要	Project Based Learning (PBL) 形式で、大学スポーツに関わる様々な問題について、小グループで「目標設定」「情報収集」「課題整理」「解決策立案」「発表」「振り返り」のプロセスを遂行し、スポーツマネジメント論の基礎知識を学修するとともに、課題解決能力を養うためのプロセスを体験学習する。
備考	対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンストとの関係	「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ力」「実践的研究能力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	課題解決能力を高めるために以下の学修目標の達成を目指す。 (1)適切な目標設定をすることができる。 (2)仲間とともに協力・分担して必要な情報を収集できる。 (3)ディスカッションを通して、課題を整理し、解決策を立案することができる。 (4)取組内容をわかり易くプレゼンテーションすることができる。 (5)発表内容や取り組み方について省察し、改善につなげることができる。
授業計画	(1) ガイダンス (PBL型授業の進め方・グループ分け) (2) 米国における大学スポーツ (講義) (3) 全米大学体育協会 (NCAA) のマネジメント1 (課題設定) (4) NCAAのマネジメント2 (自己学習) (5) NCAAのマネジメント3 (グループ討論, プレゼン資料作成) (6) NCAAのマネジメント4 (発表, 相互評価) (7) 米国大学アスレチックデパートメント (AD) のマネジメント1 (課題設定) (8) 米国ADのマネジメント2 (資料収集) (9) 米国ADのマネジメント3 (グループ討論, プレゼン資料作成) (10) 米国ADのマネジメント4 (発表, 相互評価) (11) 日本における大学スポーツ (講義) (12) 大学スポーツ協会 (UNIVAS) のマネジメント1 (課題設定) (13) UNIVASのマネジメント2 (資料収集) (14) UNIVASのマネジメント3 (グループ討論, プレゼン資料作成) (15) UNIVASのマネジメント4 (発表, 相互評価) (16) 日本における大学スポーツのマネジメント1 (課題設定) (17) 日本における大学スポーツのマネジメント2 (資料収集) (18) 日本における大学スポーツのマネジメント3 (グループ討論, プレゼン資料作成) (19) 日本における大学スポーツのマネジメント4 (発表, 相互評価) (20) 今後の日本における大学スポーツのあるべき姿 (全体討論)・まとめ
履修条件	大学スポーツマネジメント演習IIおよびIIIを履修する前に、当科目を履修すること。
成績評価方法	課題解決のための提案資料50%、プレゼンテーションおよび質疑応答50%による評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	指定した教材を事前に読んでおくこと。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付	1. 原田宗彦・小笠原悦子編著 (2008), 『スポーツマネジメント』大修館書店

資料等	2. 広瀬一郎 (2005), 『スポーツ・マネジメント』 東洋経済新聞社 3. 原田宗彦編著、藤本淳也・松岡宏高著 (2008), 『スポーツマーケティング』 大修館書店
オフィスアワー等 (連絡先含む)	重複を避けるため、事前に連絡を取ることが望ましい。 高木 英樹 takagi.hideki.ga at u.tsukuba.ac.jp http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/~takagi/ 松尾 博一 matsuo.hirokazu.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	
キーワード	アクティブラーニング, 課題解決, アクションリサーチ, 大学スポーツ

授業科目名	大学スポーツマネジメント演習II
科目番号	OBVA107
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	秋AB 木4,5
担当教員	高木 英樹, 松尾 博一
授業概要	問題自己設定型PBL授業として、大学スポーツの現状について、自ら問題提起をし、その問題を解決するための方策を提案、さらにその提案の実現可能性について、様々な先行事例を参考にしながら検討し、レポートする。
備考	大学スポーツマネジメント演習 I を履修していること。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ力」「実践的研究能力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	授業では、以下の到達目標を掲げる （1）問題の本質を見抜く力を身につける （2）課題を解決するための具体的な方策を提案できる （3）問題の所在、解決方法、評価方法について論理的に記述できる
授業計画	(1) ガイダンス（問題自己設定型PBL授業の進め方） (2) 大学スポーツマネジメントに関する問題意識の共有 (3) 大学スポーツマネジメントに関する問題の所在の明確化 (4) 大学スポーツマネジメントに関する解決すべき問題の決定 (5) 先行事例情報収集 (6) 先行事例情報共有 (7) 問題解決方法の検討 (8) 問題解決方法の共有 (9) 達成目標の検討 (10) 達成目標の共有 (11) リサーチプラン・レポート作成手順の説明 (12) リサーチプランの作成 (13) リサーチプランの共有 (14) リサーチプランの修正・完成 (15) リサーチプランの実行 (16) レポート作成 (17) レポート修正 (18) レポート完成 (19) 成果発表会 (20) まとめ、振り返り
履修条件	
成績評価方法	リサーチプラン40%、最終レポート60%により評価する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	指定した教材を事前に読んでおくこと。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	1. 原田宗彦・小笠原悦子編著（2008）, 『スポーツマネジメント』 大修館書店 2. 広瀬一郎（2005）, 『スポーツ・マネジメント』 東洋経済新聞社 3. 原田宗彦編著、藤本淳也・松岡宏高著（2008）, 『スポーツマーケティング』 大修

教材・参考文献・配付資料等	館書店
オフィスアワー等（連絡先含む）	重複を避けるため、事前に連絡を取ることが望ましい。 高木 英樹 takagi.hideki.ga at u.tsukuba.ac.jp http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/~takagi/ 松尾 博一 matsuo.hirokazu.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	OBVA106 大学スポーツマネジメント演習I
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	アクティブラーニング，課題解決，アクションリサーチ，大学スポーツ

授業科目名	大学スポーツマネジメント演習III
科目番号	OBVA108
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	通年 集中
担当教員	高木 英樹, 松尾 博一
授業概要	実践体験型PBL授業により、大学スポーツを対象とした各種スポーツイベントを実際に企画・立案し、運営するためのノウハウを実践を通して学修する。
備考	大学スポーツマネジメント演習 I およびIIを履修していること。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「マネジメント能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ力」「実践的研究能力」に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	授業では、以下の到達目標を掲げる (1) 実現可能な計画を立案する構想力を身につける (2) 自分の立てたプランを実行するための段取りをすることができる。 (3) 協力者を募り、プラン実現のためのリーダーシップをとることができる。
授業計画	(1) ガイダンス（実践体験型PBL授業の進め方） (2) 大学スポーツイベントに関するニーズ調査 (3) 大学スポーツイベントに関するニーズ調査結果の共有 (4) イベントのアイデア出し (5) イベントの目的、及び目標の設定 (6) イベントのKPI（Key Performance Indicator）検討と策定 (7) イベントのKPI測定方法の検討と策定 (8) イベント企画の実施プラン作成 (9) イベント企画の実施プラン共有 (10) イベント企画の実施プラン修正・完成 (11) イベント実施に向けた協力要請方法の検討 (12) イベント実施に向けた打ち合わせ (13) イベント実施準備 (14) イベント実施 (15) イベントのKPI評価 (16) イベント実施の総括 (17) 実施報告書の作成手順の説明 (18) 実施報告書の作成 (19) 実施報告書の振り返り (20) まとめ
履修条件	大学スポーツマネジメント演習 I およびIIを履修していること。
成績評価方法	イベント計画書・実施報告書による評価50%、面談による評価50%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	これまでに実施されたスポーツイベントの運営報告書や関連書籍などに目を通し、事例研究を自主的に行うことが望ましい。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	1. 原田宗彦・小笠原悦子編著（2008）, 『スポーツマネジメント』 大修館書店 2. 広瀬一郎（2005）, 『スポーツ・マネジメント』 東洋経済新聞社 3. 原田宗彦編著、藤本淳也・松岡宏高著（2008）, 『スポーツマーケティング』 大修館書店

オフィスアワー等（連絡先含む）	重複を避けるため、事前に連絡を取ることが望ましい。 高木 英樹 takagi.hideki.ga at u.tsukuba.ac.jp http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/~takagi/ 松尾 博一 matsuo.hirokazu.ga at u.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	OBVA106 大学スポーツマネジメント演習I OBVA107 大学スポーツマネジメント演習II
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	アクティブラーニング，課題解決，アクションリサーチ，大学スポーツ

授業科目名	博士論文課題演習I
科目番号	OBVA201
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年 随時
担当教員	木内 敦詞, 本間 三和子, 長谷川 悦示, 高木 英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 金谷 麻理子, 奈良 隆章, 松尾 博一, 永田 真一, 高橋 仁大, 金高 宏文, 前田 明, 竹中 健太郎, 梶 ちか子, 藤井 雅文
授業概要	研究テーマを定め, それに関わる課題を設定し, それに答えるためのデータを収集し, そこから根拠を示して答える。学術論文の基本構造を理解し, 緒言、方法、結果、考察において、何をどのように書くかを学ぶ。このような研究のプロセスを体系的に経験し、査読つき学術誌へ論文投稿を行うための準備を進めていく。この博士論文課題演習Iでは主に博士論文の研究テーマの構想、デザイン、計画立案を軸とし、2年次における博士論文課題演習IIでは主に投稿論文が受理されるまでの手続きを学習する。
備考	02JD301と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の創成力」「実践的研究能力」「倫理観」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	(1) 意義・新規性・実現可能性を満たした研究を計画し, 遂行できる。 (2) 倫理的配慮の十分な研究計画を遂行し, 遂行できる。 (3) 論文の各構成要素で述べるべき事項を簡潔に文章化できる。
授業計画	研究テーマを定め, それに関わる課題を設定し, それに答えるためのデータを収集し, そこから根拠を示して答える。学術論文の基本構造を理解し, 緒言、方法、結果、考察において、何をどのように書くかを学ぶ。このような研究のプロセスを体系的に経験し、査読つき学術誌へ論文投稿を行うための準備を進めていく。この博士論文課題演習Iでは主に博士論文の研究テーマの構想、デザイン、計画立案を軸とし、2年次における博士論文課題演習IIでは主に投稿論文が受理されるまでの手続きを学習する。 (1) 研究のゴールと研究プロセス (2) よい研究の条件 (3) 研究の種類を選択 (4) 論文の種類 (5) 研究テーマの育て方 (6) 研究構想, デザイン, 計画 (7) 原著論文の構成 (8) 背景と文献レビュー (9) 目的 (10) 対象と方法 (11) 採択される研究助成申請書の書き方 (12) 研究倫理に関する指針 (13) データ収集 (14) データ分析 (15) 期待した結果が得られないとき (16) 結果の記述 (17) 考察と結論の考え方・書き方 (18) 共著者, 謝辞, 文献リスト (19) 論文全体の遂行と要旨

授業計画	(20) 論文の投稿
履修条件	
成績評価方法	学術誌への執筆・投稿の状況から総合的に判断する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	下欄に示す参考文献と、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」2014年改訂(2017年一部改正)(文部科学省,厚生労働省),「筑波大学体育系研究倫理委員会研究倫理審査申請の手引き」を常に手元に置いておくこと。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	1. 近藤克典,研究の育て方:ゴールとプロセスの「見える化」、医学書院、2018 重複を避けるため、事前に連絡を取ることが望ましい。
オフィスアワー等(連絡先含む)	木内 敦詞 kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp 本間 三和子 homma.miwako.fe at u.tsukuba.ac.jp 長谷川 悦示 hasegawa.etsushi.fu at u.tsukuba.ac.jp 高木 英樹 takagi.hideki.ga at u.tsukuba.ac.jp http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/~takagi/ 鍋倉 賢治 月曜日15:00-16:00 nabekura.yoshihar.fm at u.tsukuba.ac.jp http://training.arrow.jp/nabekura/index.php?FrontPage 坂本 昭裕 特に定めませんが、事前に連絡してから訪問してください。 sakamoto.akihiro.ff at u.tsukuba.ac.jp 金谷 麻理子 kanaya.mariko.fp at u.tsukuba.ac.jp 奈良 隆章 木曜日10時30分から11時30分 体育科学系B棟 303 6336 nara.takaaki.gp at u.tsukuba.ac.jp 松尾 博一 matsuo.hirokazu.ga at u.tsukuba.ac.jp 永田 真一 メールにてアポイントメントをとってください GSI410 nagata.shinichi.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	「大学体育研究演習」と並行して受講することが望ましい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	研究構想・デザイン・計画, 研究倫理, 個人情報保護法

授業科目名	博士論文課題演習Ⅱ
科目番号	OBVA202
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	通年 随時
担当教員	木内 敦詞, 本間 三和子, 長谷川 悦示, 高木 英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 金谷 麻理子, 奈良 隆章, 松尾 博一, 永田 真一, 高橋 仁大, 金高 宏文, 前田 明, 竹中 健太郎, 梶 ちか子, 藤井 雅文
授業概要	投稿した論文に対する査読者および編集委員会からの指摘を正しく理解し、それに対する意見を添えた修正原稿をとりまとめる。受理された後も、ゲラ校正において一字一句に著者としての責任を持ち、誤植等のない論文を公表する。査読者および編集委員会との文章でのやりとりを体験するなかで、自己の研究課題の意義や方向性を深く再検討していく。QE(博士論文執筆開始資格認定検査)へ向けた準備を進める。
備考	02JD302と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の創成力」「実践的研究能力」「倫理観」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	(1) 査読者の意見をとり入れながら、自己の研究課題の意義や方向性を再検討できる。 (2) 大学の体育授業や運動部活動の指導に関する実践の自己内省に基づき、自己の教育指導理念を言語化できる。
授業計画	投稿した論文に対する査読者および編集委員会からの指摘を正しく理解し、それに対する意見を添えた修正原稿をとりまとめる。受理された後も、ゲラ校正において一字一句に著者としての責任を持ち、誤植等のない論文を公表する。査読者および編集委員会との文章でのやりとりを体験するなかで、自己の研究課題の意義や方向性を深く再検討していく。QE(博士論文執筆開始資格認定検査)へ向けた準備も進める。 (1) 査読回答書の理解 (2) 指摘点へ対応方針の検討 (3) 指摘点への対応と新旧対照表の作成 (4) 論文の再投稿 (5) 再査読回答書の理解 (6) 指摘点への対応 (7) 論文の再々投稿 (8) 再々査読回答書の理解 (9) 指摘点への対応 (10) 論文受理後のゲラ校正 (11) QEで審査される事項の把握 (12) 本専攻の人材育成像の確認 (13) 体育授業のシラバス・レッスンプランの作成 (14) 担当授業の動画撮影と教師行動分析 (15) 授業アンケートの集計整理 (16) 運動部活動の年間指導状況(計画)の整理 (17) 運動部活動の指導理念の文言整理 (18) 実践的研究能力に関するプレゼン演習 (19) 実践的教育能力に関するプレゼン演習 (20) QE実施
履修条件	

成績評価方法	本専攻の目指す3つの能力「実践的研究能力」「実践的教育指導力」「高度指導者教養」の水準をQEによって評価し、これに合格することで単位認定される。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	下欄に示す参考文献と、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」2014年改訂(2017年一部改正)(文部科学省,厚生労働省),「筑波大学体育系研究倫理委員会研究倫理審査申請の手引き」を常に手元に置いておくこと。 本時は2単位なので授業時間と合わせて90時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	1. 近田政博,シリーズ大学の教授法5『研究指導』玉川大学出版会,2018
オフィスアワー等(連絡先含む)	重複を避けるため、事前に連絡を取ることが望ましい。 木内 敦詞 kiuchi.atsushi.fw at u.tsukuba.ac.jp 本間 三和子 homma.miwako.fe at u.tsukuba.ac.jp 長谷川 悦示 hasegawa.etsushi.fu at u.tsukuba.ac.jp 高木 英樹 takagi.hideki.ga at u.tsukuba.ac.jp http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/~takagi/ 鍋倉 賢治 月曜日15:00-16:00 nabekura.yoshihar.fm at u.tsukuba.ac.jp http://training.arrow.jp/nabekura/index.php?FrontPage 坂本 昭裕 特に定めないが、事前に連絡してから訪問してください。 sakamoto.akihiro.ff at u.tsukuba.ac.jp 金谷 麻理子 kanaya.mariko.fp at u.tsukuba.ac.jp 奈良 隆章 木曜日10時30分から11時30分 体育科学系B棟 303 6336 nara.takaaki.gp at u.tsukuba.ac.jp 松尾 博一 matsuo.hirokazu.ga at u.tsukuba.ac.jp 永田 真一 メールにてアポイントメントをとってください GSI410 nagata.shinichi.gm at u.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	「博士論課題演習 I」履修済みであることが望ましい。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	研究構想・デザイン・計画, 研究倫理, 個人情報保護法

授業科目名	コーチングの哲学と倫理
科目番号	OBTR004
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	春AB 月5
担当教員	中山 雅雄, 齋藤 健司, 深澤 浩洋, 本間 三和子, 山口 香, 河合 季信, 向井 直樹, 浅川 伸, 勝田 隆, 秋山 央
授業概要	コーチの仕事と求められる資質および能力を理解するとともに、コーチング実践の根幹となる哲学と倫理について学習し、これからの時代にふさわしいコーチングを創造していく能力を養成する。また、授業を通してコーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、それらを報告し議論させることをとおして、コーチとしての自らの倫理感や哲学感, 視座を明確にする。
備考	02ER004と同一。 主専攻必修科目 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	インテグリティ、国際性、創造力
授業の到達目標（学修成果）	自らのコーチングを省察し、新しい時代にふさわしいコーチングを創造できる能力を身につける。また、国際的に活躍するコーチ、社会のリーダー的存在となるコーチ、コーチを教育できるコーチング系の大学教員に必要な能力を修得する。 1) コーチングに求められる倫理観と人間性(インテグリティ)を確立すること。 2) コーチングにおいて国際的に考え行動する能力を涵養すること。 3) これからの時代や国際社会にふさわしいコーチングを創造していく能力を修得すること。
授業計画	第1回 コーチが有すべき指導哲学および指導倫理 (4/14) 担当:河合 季信 第2回 コーチングとフェアプレー (4/21) 担当:深澤 浩洋 第3回 コーチングと人権 (4/28) 担当:齋藤 健司 第4回 コーチングと暴力・体罰 (5/12) 担当:山口 香 第5回 コーチングとハラスメント (5/19) 担当:本間 三和子 第6回 コーチングとドーピング・薬物乱用 (5/26) 担当:浅川 伸 第7回 コーチングと事故防止・安全対策 (6/2 : 6限) 第8回 新しい時代にふさわしいコーチング (6/9) 「インテグリティ」と「コンピテンシー」の視点から (6/10) 担当:勝田 隆 第9回 新しい時代にふさわしいコーチングを議論する1 (6/16) 担当:中山 雅雄 第10回 新しい時代にふさわしいコーチングを議論する2 (6/23) 担当:中山 雅雄
履修条件	コーチング学位プログラムに所属する学生
成績評価方法	評価の割合は、発表60%、討論への取り組み40%とし、総合的に判断してA+ ~ C、又はDの評定を行う。 発表は、構成力、論理力、要約力、説明力などの観点から評価する。 討論への取り組みは、質問力、回答力などの観点から評価する。 発表・討論の評価基準の詳細を授業時間内で提示し、解説・講評する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	コーチングに関連すると考えられる他分野の哲学および倫理に関する一般書や文献を読むこと。 授業後に学修範囲を復習し、コーチング実践に応用できるよう理解を深めること。
教材・参考文献・配付	授業時間に資料を配布し、それに沿って進める。

資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	<p>オフィスアワーは特に定めませんが、事前に連絡してから訪問すること。</p> <p>秋山 央：akiyama.nakaba.ff@u.tsukuba.ac.jp</p> <p>（体育科学系B棟 B312）</p>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>他分野の哲学および倫理に関連する本を多数読み、自らが取り組むコーチングに求められる倫理観と人間性の確立に努めてほしい。</p> <p>単位認定の対象は、原則として当該授業科目の出席時間数が3分の2以上の者とする。</p> <p>レポート等の作成に際して生成AIを用いる場合には、「教育における生成AI 活用のガイドライン（学生向け）」を参照し、適切に活用してください。</p>
他の授業科目との関連	OBTR003 コーチング学事例研究法
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	TA配置なし。
キーワード	コーチング、哲学、倫理

授業科目名	最先端スポーツ科学理論
科目番号	OBVA301
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年 応談
担当教員	高橋 仁大, 金高 宏文, 前田 明, 竹中 健太郎, 梶 ちか子, 藤井 雅文
授業概要	本授業では、大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養として、体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を概説し、その見識を深めることを目指す。授業は、鹿屋体育大学教員による講義、学外講師を招聘して開催する特別講義・研究セミナー、さらに論文指導研究会および学位論文発表会で実施される。
備考	02JD201と同一。 遠隔授業 オンライン(同時双方向型) 鹿屋体育大学
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の創成力」「実践的研究能力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を、専門外であっても積極的に討論等を行うことで理解する。さらに、その知見と大学体育や大学スポーツにおける実践場面との関係性を見出し、活用を考えることができることを目指す。
授業計画	(1) 生命科学 1 【高橋、金高、前田、竹中、梶、藤井】 (2) 生命科学 2 【高橋、金高、前田、竹中、梶、藤井】 (3) 特別講義・研究セミナー(学外講師招聘) 【高橋、金高、前田、竹中、梶、藤井】 (4) 文化・社会科学 1 【高橋、金高、前田、竹中、梶、藤井】 (5) 文化・社会科学 2 【高橋、金高、前田、竹中、梶、藤井】 (6) 特別講義・研究セミナー(学外講師招聘) 【高橋、金高、前田、竹中、梶、藤井】 (7) 論文指導研究会への参画 【高橋、金高、前田、竹中、梶、藤井】 (8) 学位論文発表会への参画 【高橋、金高、前田、竹中、梶、藤井】
履修条件	
成績評価方法	毎回の授業レポート(70%)及び討論への参加度(30%)から総合的に評価する。 各回の授業レポートおよび討論への参加度については、必要に応じて次回以降の授業内で講評を行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業後毎回レポートを課すので、期日までに提出すること。 指定した教材を事前に読んでおくこと。 本時は1単位なので授業時間と合わせて45時間の修学を必要とする。
教材・参考文献・配付資料等	教科書:なし 随時必要な資料(原著論文や専門領域に関する書籍等)を配付する。

オフィスアワー等（連絡先含む）	<p>随時 事前にアポイントをとること</p> <p>高橋(SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室)</p> <p>金高(大学院棟3階4教員室)</p> <p>前田(研究棟4階405教員研究室)</p> <p>竹中(研究棟5階507教員研究室)</p> <p>柊(研究棟7階703教員研究室)</p> <p>藤井(研究等8階804教員研究室)</p>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>「教育における生成AI活用のガイドライン(学生向け)」を参照し、適切に活用してください。生成AIによる提案や回答が必ずしも正確とは限らないため、得られた情報は批判的に評価し、責任をもって内容を精査してください。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	生命科学, 人文・社会科学, 教養教育, 高度指導者